2023年2月5日　朝 礼 拝 順 序 (午前10時半)　(№6)

司式　杉山昌樹牧師

前　奏　奏楽　杉山友実子姉

開 会 招 詞　コロサイ３章16節

＊ 賛 美 歌　7:1（ソングシート）

1. 父の神よ 夜は去りて、新たなる 朝となりぬ。我らは今 御前に出て、御名をあがむ。アーメン

＊ 開 会 祈 祷

罪 の 告 白　祈祷書2　罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。　主イエス・キリストの御名によって。アーメン。　(詩編51)

罪の赦しの宣言

十　戒　祈祷書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。　(出エジプト20、申命記5)

＊ 賛 美 歌　7:2（ソングシート）

2. 万有の主よ、御顔仰ぐ僕らを 強くなして、天つ国の 尽きぬ恵みを得させ給え

アーメン

公 同 の 祈 祷　33　役員のための祈り (定期会員総会後主日)

いつくしみ深い父なる神さま、あなたの御子イエスは仕える者の姿をとり、最後の晩餐の席で弟子たちの足を洗い、人間の誇りを拭い去ってくださいました。わたしたちも誇りを捨てて、互いに仕え合うことができますように。

特にキリストがお立てになった教会役員が、キリストの模範に倣い、愛をもってあなたの民を導くことができますように。信徒一人一人も、役員の指導に従い、教会の一致と平和に努めることができますように。アーメン。(ヨハネ13、Iペトロ5、「誓約」六)

献　　金　　（黒）教会活動　（赤）四国伝道　　70

今献ぐるそなえものを　主よ　清めて受けたまえ　アーメン

書　朗　読　　レビ6章18－23節（旧約聖書170頁）

フィリピ２章12－18節（新約聖書363頁）

説　教・祈　祷　「完全なものとは」杉山昌樹牧師

＊ 賛　美　歌　３５:１－２

1. 十字架のうえに　屠られたまいし　こよなくきよき　み神のこひつじ、わがため悩みを　しのびたまいし　み恵み　げにもとうとし。

2. 十字架のうえに　屠られたまいし　こよなくきよき　み神のこひつじ、み救いあらずば　罪のこの身は、ほろびをいかでまぬがれん。アーメン

＊ 主　の　祈　り　　祈祷書1

天にましますわれらの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ　御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり　　アーメン。

＊ 頌　　栄　　６７

主イエスのめぐみよ、ちちのあいよ、みたまのちからよ、あぁみさかえよ。アーメン

＊ 祝　　祷

後　　奏　　（黙祷）

報　　告 司会門脇献一長老・受付古澤兵庫長老（次週：門脇陽子・門脇献一長老）

本日　受付　１階：佐藤紀子・古澤迪子執事　２階：大日南信也執事　／ZOOMホスト・録音：門脇光生

次週　受付　１階：那珂信之・星野房子執事　２階：藤井牧子執事　／ZOOMホスト・録音：大日南悠

フィリピ2：12－18　「完全な者とは」

子ども礼拝、光

突然ですが、今日のこども礼拝の聖書箇所は、マタイによる福音書5章14－16節でした。有名な「あなた方は世の光である」という箇所です。キリスト者は世の光である、これは間違いのないことです。それは私たちに神様の働きかけがあるからです。実は今日の所でも同じような言葉が15節にあります。「非の打ちどころのない神の子として、世にあって星のように輝き」とあるところです。これは、わたしたちがもうそのようなものになっている、だから、これからもますますそのようなものとして生きていこう、という呼びかけの中で語られています。パウロはここで、改めて、みんな一緒に喜んで生きていこう、と呼びかけ、そのための秘訣を語っています。今日は、そのようにみんなで喜んで、星のように輝くために、パウロが語る言葉を聞いていきます。

従順であるために

パウロはまず「だから」ということを言います。もちろん、その前を受けています。その前は何を言っていたのかと言いますと、イエス様のご支配がはじまった、ということでした。何しろ、神様から「あらゆる名に優る名を与えられ」、「すべて、イエスのみ名に跪き」ということがもう、あの十字架と復活によって始まったのだ、とこう言われていました。そのようなことがすでにあったのだから、教会に集まってきている人たち、この場合にはフィリピの人たちに向けてですが、だから、私の愛する人たち、これこれ、このように生きていこう、というようにつながっていきます。もちろん、これは、フィリピ教会の人たちだけではなく、私たちへの言葉としても聞くことができます。そこで、最初に言われるのは「従順」ということです。この場合の従順は、何よりも、神様への従順です。それ以外にはありえません。この神様への従順がいつも、フィリピの人たちの間に変わらずあった、ということがまず確認され、つづいて、パウロはこの時、捕らわれの身になっていましたから、このようにパウロが離れている状態でも、これからもずっと神様に従順でいてほしい、と言います。その場合に、必要なことが一つある、と言います。それは、恐れおののきつつ、自分の救いを達成する、ということです。では、この場合に、何に対して恐れおののくのでしょうか。どうやって救いを達成するのでしょうか。

何を恐れるのか

例えば、全くダメな解釈を一つ挙げます。神様が、救ってくださるかどうかわからない、いつ神様から「お前はだめだ」と言われてしまうかわからない、だからそうならないように、恐れおののいていよう、というのは間違った理解です。なぜなら、もし、私が何かをする、私が何かを思う、そのことだけで、私の救い、私と神様との関係が決まってしまうということでしたら、キリスト教信仰は、全く自分の努力次第、どのようにして、信仰の達人になるのか、自分を鍛えるのか、それ次第になりますが、聖書もパウロもそんなことは言っていないからです。そうであれば、この「恐れおののきつつ救いを達成する」という言葉は、全く別のことを意味しているはずです。では何なのか、これを読み解くために必要なのは、その次の13節で言われていることです。それは、一言で言えば、私たちの内に、もうすでに神様のお働きが始まっている、という事実です。例えば、皆さんが初めて教会に来た日のことを覚えておられるでしょうか。いわゆるキリスト教二世、三世の方、わたしたちの言葉でいえば、契約の子である方であったら、気が付いたら両親と一緒に教会に来ていた、ということでしょうけれども、いずれにしましても、私たちはある時信仰をもったのです。今持っていない方があったとすればいずれもつように招かれているのです。

内なる神の働き

そして例えば、主イエスということ、あるいは「イエス様」と呼ぶこと、あるいは、神様、父なる神さま、と呼びかけること、これは、そのまま、信仰と関わることです。むしろ、そのようにして、神様に、あるいはイエス様に呼び掛ける思いが与えられている、このこと自体が、実は奇跡的なことです。私たちは、そもそも、生まれたままでは神様をよく知らないものだからです。神様のことが分からないものだからです。神様のことが分からないものが、神様の名前を呼ぶものとされているのです。そこには明らかに、神様の力が働いているのです。先ほど、一つ前の段落を確認してみると、神様がイエス様

に「あらゆる名に優る名を与えらえた」という言葉があった、ということを確かめました。イエス様が「主」であること、もっと言えば私と関係ない歴史の偉人イエス、ではなく私の主「イエス様」と親しく呼びかけられること、そのように、わたしたちが、ある時教会の門をくぐり、やがて信仰を告白した、私はイエス様は救い主だとわかるようにされた、ということ自体が、いわば、奇跡のようなことです。そして、わたしたちが恐れおののくのは、このようにして、神様がほかでもない、この私に目をかけてくださっていること、この私を選んで、とらえて下さって、ご自身のものとしてくださっている事実です。パウロが言いたいこと、それは、この事実に驚き、この神様の事実の中に自分がいることを正しく恐れおののくことです。そして、そこにとどまり続けることです。

何をするにも

実は、教会に生きるということ、教会で何かをすることの根本にあるのはこのことです。あるいは、どのような場合にも、このような、神様が一緒に働いてくださっているという事実に、恐れとおののきをもっていること、そこにとどまることが、ここで強調されているのです。それを、ある意味では、逆の方向から、言い換えているのが続く14節です。ここでは、不平や理屈、ということが言われます。さらに15節では、邪な曲がった時代、という強い言葉があります。これは、漠然とパウロの時代、あるいは、私たちの時代がよくない、神様の前に間違っている、という一般論を言っているのではありません。そうではなく、この二つの言葉は、明らかに、イスラエルの失敗を意識した言葉です。

民数記にこのような言葉があります。「「この悪い共同体は、いつまで、わたしに対して不平を言うのか。わたしは、イスラエルの人々がわたしに対して言う不平を十分聞いた。」（民数14：27）これは出エジプトの時に、カナンに偵察に行った人たちが戻ってきて、否定的なことを語るのを聞いて、民全体がモーセと神様ご自身につぶやいたのを聞いた神様の言葉です。

神さまと一緒に歩んでいたはずなのに、思っていたのと違う、こんなはずではなかった、と言ってつぶやいてしまう、このようなことがどうも私たちの中にあるようです。罪を持つものの弱さです。このようなイスラエルの世代について、神様は申命記の中で「不正を好む曲がった世代」と言い、「神を離れて傷がある」といったのでした。

非の打ちどころのない人－星のように輝く

「傷」ということでは、しばしば、ささげ物との関連で、傷があるかないかが問題になります。例えば、レビ記にはこうあります。「主に受け入れられるように傷のない牛、羊、山羊の雄を取る。」（レビ22：19）。しかし、今日の聖書でパウロは、私たちはまさに傷のないものだ、というのです。む非の打ちどころのない神の子になっているのだと言います。

ちなみに、この**「非の打ちどころがない」という部分は新しい協会共同訳では「傷のない神のこどもとなって」と訳されています**。まさにこの通り、わたしたちは、神様の前で全くきずのない、非の打ちどころのない神の子に今なっているのです。そしてそのようなものとして、今、すでに、星のように輝く者、命の言葉をしっかりと保つものとなっているというのです。そして忘れてはならないのは、わたしたちは、このようなものにこれからなっていくのではなく、今すでにこのようなものとなっているので、後はそこにとどまるだけだということです。

教会の基本

そして、教会で何かを行っていく場合に、いつでも土台にあるのはこの事実です。わたしたちが、恐れおののくような、神様からの力に動かされているという事実、神様の宝の民となっているという事実です。この事実を踏まえて、パウロの一つの言葉を読んでみます。

コリントの信徒への手紙です。「一コリ12:4　賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神です。」（コリントI12：4－6）。

これは明らかに教会の中での様々な働きのことを言った言葉です。それは何も、特別に役員ですとか、奏楽者ですとか、何かの係のことだけではありません。教会は皆さんがいて下さること自体に意味があります。もっと言えば、いて下さることが役割です。そして、その役割を果たす皆さんの中で、

それをなさせているのは、神様だ、すべてのことをなさるのは同じ神さまだ、このようにパウロは言うのです。

一緒に喜ぶ－パウロの譬え

　そして、このような生き方について、パウロは17節で、旧約のささげものに譬えて語り始めています。「信仰に基づいてあなたがたがいけにえを捧げ」というのは、何も、フィリピの人たちが、律法にあるように、動物をささげる、ということではありません。これはあくまでたとえです。では何をささげるのか、自分たちの信仰のあり方をささげるのです。そして、わたしたちは、きずのないものなのですから、当然神様は、喜んで受け入れてくださるのです。私たちの恐れおののきながら自分を差し出していくその姿を、神様は喜んで受け入れてくださるのです。そして、そこには喜びがある、というのです。パウロの血が注がれる、というのもまた、たとえです。おそらくパウロの何らかの犠牲が言われているのでしょうけれども、それよりも大切なことは、このようにして、フィリピの信徒一人一人が神様に受け入れられて喜ぶことが、私の喜びだと言っていることです。ここに伝道者の全く正しい、そして唯一のあるべき姿が現されていると言えるでしょう。そしてまた同時に、教会のあるべき姿が現されています。それは、みんなで一緒に喜ぶということです。

完全な者とは

　それでもし完全な教会、完全な牧師、完全な信徒、といったことがあるとすれば、どのようなものか、その答えは明らかです。それは、全くパウロが描き出してくれた意味で、神様の前で、恐れおののきながら、いつでも神様と一緒に生き、そのように生きることが神様の業となっている、そして、ただ一緒に生きることを喜んでいる、そんな教会であり続けることです。

祈り

　父なる神さま、み名を賛美します。あなたは、私たちに罪の贖いと永遠の命を用意してくださったばかりではなく、わたしたちが、それを知り、受け入れ、その中に生きることをもあらかじめ備えてくださいました。この大いなるみ心を感謝します。わたしたちがすでにこのあなたのご計画の中にあって行かされていることをいよいよ覚え、あなたを正しく畏れつつ歩みを続けていけますようにお願いいたします。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン。